

研究課題 (テーマ)	乳幼児の子育てにおける先端テクノロジー活用に関する意識		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学科地域看護学講座	講師	大西 竜太
研究結果の概要			
<p>下記内容について学会発表を行い、論文を投稿した。</p> <p><b>【目的】</b> 近年、人工知能やロボティクス等の先端テクノロジーが進展し、育児の効率化や親の負担軽減が期待される一方で、テクノロジー依存や親子の時間減少などのリスクも懸念される。健やかな育児のために有効な先端テクノロジーの利用のあり方を検討するための基礎資料が求められる。本研究は、育児におけるテクノロジー（育児テック）の利用に対する親の認識の実態を、リスク・ベネフィット認知を中心に把握し、父親と母親の間の差異を明らかにする。</p> <p><b>【方法】</b> 調査会社より紹介を得た 0-3 歳児の父親と母親にオンラインアンケート調査を行った。調査内容は、個人属性、テクノロジー利用状況、育児テックに対する認識とした。育児テックに対する認識は、世話、健康管理、行動管理、発達促進の4つの用途それぞれの認知度、利用経験、利用願望、ベネフィット認知、リスク認知について調査した。分析では、父親と母親の層別にて記述統計およびウィルコクソンの順位和検定を行った。本研究は所属機関の倫理委員会の承認を得た。</p> <p><b>【結果】</b> 有効回答は 495 名（父親 256 名、母親 239 名）であった。4 用途の育児テック認知度は父親が 9.7～13.6%、母親が 13.0～29.0%であった。利用経験は父親が 7.6～9.3%、母親が 5.4～12.2%であった。利用願望は全体の約 5 割が「あり」と答え、世話に関する育児テックの利用願望は母親がより高い傾向であった。ベネフィット認知では父親・母親ともに「負担軽減」が一番の利点であった。リスク認知では父親は「過度な依存」、母親は「誤作動トラブル」または「過度な依存」を一番のリスクと捉えていた。リスク・ベネフィット認知の比較では、母親の方が「負担軽減」を利点、「誤作動トラブル」「過度な依存」をリスクと捉えていた。発達促進において父親は親子交流・社会的交流の促進を利点と見なし、対照的に母親はそれらに問題が生じるリスクを認識していた。</p> <p><b>【結論】</b> 現在、育児テックの認知度は低いだが、将来的に利用が日常化すると予測される。両親ともにテクノロジー依存を懸念する点は共通であるが、子どもの他者との交流に関して父親と母親で異なる認識を有している。将来的な育児テックの浸透を見据え、育児テックへの過度な依存や夫婦間の認識の齟齬を考慮し、テクノロジーを活用した育児に必要なリテラシーの概念の構築が求められる。</p>			
今後の展開			
投稿した論文の査読対応を行い、掲載を目指す。			